

I 事業期間 2013 年 6 月 1 日 ～ 2014 年 5 月 31 日

II 事業の成果

1. 街路樹剪定枝葉の有効利用の推進

公園の緑化樹や街路樹などの剪定枝葉は毎年大量に焼却処分されている未利用資源ですが、剪定枝葉を分別せずに資源化する従来の方法では用途が限られるために需要が伸びないという問題があります。剪定枝葉を枝と葉に分別すれば、枝はそのままマルチング材に利用できるほか、パルプや木炭などの原料、バイオマス発電のための燃料として利用できます。一方、葉（生葉）は土壌改良材だけでなく、植物栽培用の培地にも利用できます。

当法人は継続的な技術指導、研究機関との共同研究や主要技術の特許化を推進すると共に、国土交通省や自治体、民間企業への技術の普及を図る活動を行っています。また、国道 43

号道路緑化樹の剪定枝を利用した「国道 43 号名刺」は当法人の事務局や会員のほか公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団・大阪市西淀川区）などでも使われています。なお、大阪府吹田市において「剪定枝葉の地産地消」の事業化が内定していましたが、その後の政治的な変化により延期された状態が続いています。当法人は技術についての講演をするなど、各所へ粘り強く働きかけを行っています。



「剪定枝葉と刈草の活用技術」全体図

[参考] 有限会社マツテル <http://matteru.com/>

2. 高等独文解釈のウェブサイト公開 <http://dgcbase.jp/deutsche/>

上級者向け独文読解のためのサイト「高等独文解釈」は大阪大学名誉教授（故人）が独文解釈用に収集した文章とその和訳の遺稿を試行的にウェブ公開するものです。この遺稿は当初は参考書として出版されるためにまとめられましたが、一般の学生にはやや難解であることから出版が見送られていました。それから約 20 年を経た現在では、本ではなくインターネットを利用して発信することができます。ドイツ文学の学生のみならず一般の愛好家の方々にも広く読まれることを期待して、ウェブサイトにて 124 題を無料公開しています。

3. とよなかサイエンス BAR

「サイエンスカフェ」とは、学術講演会やシンポジウムなどの専門的な催しではなく、カフェのような雰囲気の中で科学について気軽に語り合う場を創ろうという試みです。日本でも様々な場が設けられていますが、専門家による一方的な講演に陥りがちで、会場に居合わせた誰もが「気軽に語り合う」までにはなかなか達していないようです。「とよなかサイエンス

BAR」は、お酒やおつまみを楽しみながらもっと気軽に参加することを期待して、とよなか起業・チャレンジセンターに集う有志により創設されました。



「第14回とよなかサイエンスBAR」の様子

前期中の第2回（2012年8月31日）に当法人事務局長が出演したのに続いて、当期においては第13回（2013年7月26日）に「季節外れのイチゴの話」、第14回（同年8月30日）に「信仰に見られる科学～中世仏典が捉えた自然～」と題して当法人の理事2名がそれぞれ講演し、さらに第16回（同年10月25日）の「食の安全を巡る座談会～身近な食品を巡るリスクを科学的に考える～」においては当法人の事務局長が再び講師を務めました。

[参考] とよなかサイエンスBAR（とよなか起業・チャレンジセンター）

<http://toyonaka-incu.com/saiensuba-.htm>

4. 科学の普及啓発に資する図書の寄贈

世間には科学的とは言い難い情報が氾濫しています。話題がセンセーショナルなものに偏っているだけでなく、その情報自体が間違っていることも多々あります。原発事故による放射線のリスクに関する情報も例外ではなく、それらが一般消費者の行動に少なからず影響しています。



中西準子著「原発事故と放射線のリスク学」

中西準子著「原発事故と放射線のリスク学」（日本評論社）は外部被曝線量の計算値の誤り（過大評価）を指摘した上で、リスク管理の立場から原発事故や放射性物質の除染などについて考察した良書です。当法人は豊中・箕面・茨木3市の公立図書館へこの著書を寄贈しました。一人でも多くの方々に本書が読まれ、冷静な判断のための一助となるよう期待します。

[参考] 中西準子著「原発事故と放射線のリスク学」（日本評論社）

<http://www.nippyco.jp/book/6470.html>

著者自身による紹介記事

http://homepage3.nifty.com/junko-nakanishi/zak661_665.html

5. 研究者集団につながる窓口の運営・その他 <http://dgcbase.jp/>

事務局やウェブサイトでは、学際的な共同研究、社会学連携による研究開発やイベントの企画立案などについての問い合わせを随時受け付けています。研究者集団への相談窓口としての役割に留まらず、科学的で俯瞰的な現状認識に基づいたコンサルティングを行っています。また、「液状魚かすを利用した肥料の研究開発事業」（大阪府「平成25年度組合チャレンジ事業」採択事業）の検討会（2013年9月3日）においては当法人の事務局長が座長を務めました。

[参考] 「平成25年度組合チャレンジ事業」（大阪府）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=13462>

Ⅲ 事業の実施状況

1. 特定非営利活動に係る事業

(1) 産官学民連携推進事業（一般会計）

【内 容】 産官学民連携事業の企画および支援

【実施場所】 京都府、大阪府、インターネット

【実施日時】 随時

【対 象 者】 参加希望者

【収 入】 1,500 円

【支 出】 113,096 円

【内 容】 「魚粕の肥料化についての検討会」における座長

【実施場所】 大阪府立環境農林水産総合研究所（羽曳野市尺度 442）

【実施日時】 2013 年 9 月 3 日、14 時～16 時

【対 象 者】 「液状魚かすを利用した肥料の研究開発事業」関係者

【収 入】 20,000 円

【支 出】 3,300 円

(2) 科学普及啓発事業（一般会計）

【内 容】 「第 16 回とよなかサイエンス BAR」における依頼講演等

【実施場所】 とよなか起業・チャレンジセンター（豊中市蛍池中町 3-9-20）

【実施日時】 2013 年 10 月 25 日、19 時～21 時

【対 象 者】 好奇心旺盛な大人の方

【収 入】 7,000 円

【支 出】 7,318 円

【内 容】 科学の普及啓発に資する図書の寄贈

【実施場所】 豊中市、箕面市、茨木市

【実施日時】 2014 年 5 月

【対 象 者】 上記自治体の公立図書館

【収 入】 0 円

【支 出】 6,720 円

Ⅳ 社員総会の開催状況

1. 定時総会

【開催日時】 2013 年 8 月 30 日、15 時～17 時

【開催場所】 当法人事務局（大阪府豊中市曾根東町 1-5-13）

【出席者数】 正会員 17 名（正会員総数 29 名）

【議 案】 第 1 号議案 2013 年 5 月期事業報告及び活動決算の承認の件
第 2 号議案 次期役員を選任の件

- 【審議結果】 第1号議案は、満場異議無く承認可決した。
第2号議案は、各立候補者が満場一致をもって選任された。

V 理事会その他の役員会の開催状況

1. 理事会

【開催日時】 2013年8月4日～13日

【開催場所】 インターネット上（役員メーリングリスト上にて実施）

【出席者数】 理事4名（理事総数4名）、監事1名

【議案】 事業報告書案および決算報告書案の承認の件

【審議結果】 上記2案のいずれについても、満場異議なく原案通り承認した。

【開催日時】 2014年1月26日～29日

【開催場所】 インターネット上（役員メーリングリスト上にて実施）

【出席者数】 理事4名（理事総数4名）、監事1名

【議案】 「第2回日経ソーシャルイニシアチブ大賞」応募申請書案の承認の件

【審議結果】 満場異議なく原案通り承認した。

以上